

# 製品安全に関する広報の在り方について

令和3年10月

経済産業省産業保安グループ製品安全課

# 製品事故の防止に向けた広報連携の必要性について

- 製品事故の約3割が消費者の誤使用・不注意等の製品に起因しない事故となっている。消費者が事故を起こさない行動が取れるよう、危険への気付きを提供するとともに、日頃から安全意識を高め、製品の適切な使い方を浸透させておくことが必要。
- とりわけ災害発生時等の非日常かつ緊急時に発生する製品の誤使用・不注意事故は、死亡など被害の重篤性が高いため、消費者の製品に対する安全意識を向上させ、災害発生時の誤使用・不注意による事故の減少させることが必要。
- 一方で、情報過多となっている消費者にとって、平時に提供される災害発生時等の製品事故情報は、関心を配るべき情報と捉えられていない可能性がある。
- 緊急時等に消費者へ“安全確保のために必要な情報”を「早く、分かり易く」届けるため、効果的な情報発信を行うとともに、消費者の製品安全意識を浸透させる仕組みを構築することも必要。



消費者の製品に対する安全意識向上

# 地域テラーメイドの情報発信のあり方（例：除雪機）

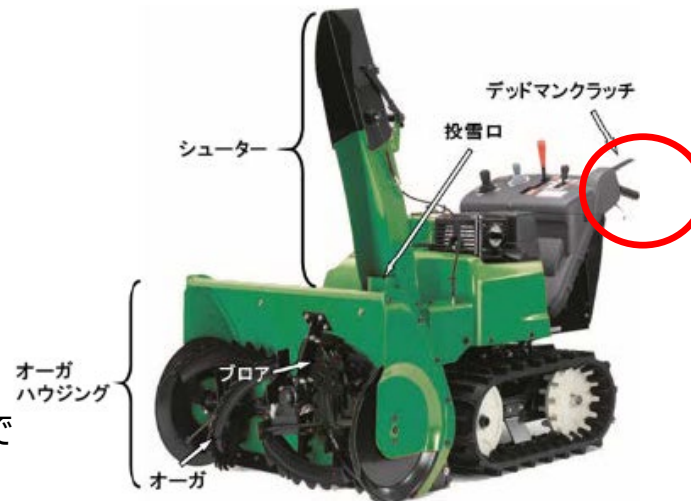
- 除雪機については、例年降雪時期に多くの事故が発生しており、その大半は死亡や重傷など被害の程度が大きい。昨冬も15件※の事故が発生。（うち、死亡9件）
- 事故原因に多く見られるのが、回転部（オーガ）に巻き込まれる事故や下敷きになる事故。
- NITEの事故情報分析によれば、高齢者の事故が多発しており、豪雪地帯における高齢化等の地域や消費者の特性を考慮したきめ細やかな情報提供が必要と示唆されている。
- 「安全装置の無効化は絶対してはいけない」「取扱説明書を遵守する」等の基本的な注意喚起の徹底と、それらが守られる仕組み作りに加えて、消費者が自分事として注意喚起を受け止める環境を整備しなければ、除雪機による事故はなくなる。
- 自治体や関係団体と連携し、特に高齢者に届きやすい手法で、除雪の際の安全を確保する仕組み作りを検討していきたい。

※重大製品事故及び事故情報データベースの事故情報

## 主な事故の類型

- ① 除雪機に轢かれる事故
- ② 除雪機と壁等にはさまれる事故
- ③ オーガ等に巻き込まれる事故
- ④ 投雪口に手を突っ込み負傷する事故

歩行型ロータリー式除雪機：オーガと呼ばれる回転刃で雪をかき集めてシューターで吹き飛ばして除雪する



デッドマンクラッチ：  
ハンドルを握りながら除雪機を操作し、手を離すと自動的に除雪機が止まる安全装置。

# 災害発生時の事故の概要、事故を防止するための呼びかけ

台風や地震などの自然災害が発生したとき、災害そのものによる被害だけでなく、災害をきっかけに製品事故が発生することがある。

- 停電時に、屋内でガス・石油機器、小型発電機を使用したことにより一酸化炭素中毒による死亡事故が発生。

事故発生年月日 2018 年9月8日（北海道、50歳代・男性、死亡）※北海道胆振東部地震発生後事故

【事故の内容】一酸化炭素中毒により1名が死亡し、現場に家庭用の小型発電機があった。

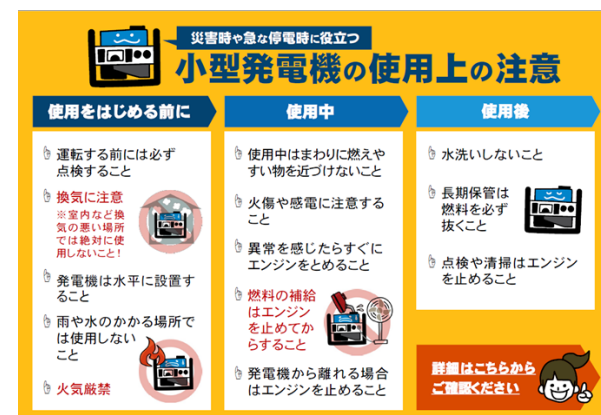
【事故の原因】停電時に小型発電機を換気の不十分な屋内で使用したため、排ガスが滞留し、一酸化炭素濃度が上昇して事故に至ったものと考えられる。

- 停電が終わり、通電した時に、機器や製品の利用再開の手順を怠ることで火災が発生。
- 自治体や関係団体と連携し、停電時、停電普及時等に必要な情報が消費者に的確に届くための、仕組み作りを検討していきたい。

※一酸化炭素濃度3200PPMでは、30分で死亡に至る。



室内で携帯発電機を使用した際の一酸化炭素中毒（提供：NITE）



小型発電機使用上の注意について  
当省HP、twitterにて発信

# ■ 製品安全における広報戦略の強化（Twitterの活用）

- 2010年より、製品事故対策室では情報発信ツールとしてTwitterを活用。
- 今年度、ヘッダー、アイコンのデザインを一新し、ツイート内容を充実させることで少しずつフォロワー数も伸ばしている状況。（平時及び戦時のツイートを拡充）
- 現状のフォロワー3705人（9月15日現在）、1週間の閲覧数50万件程度、1ツイートに対するリツイート数平均10件～20件。（リコールのツイートは注目度も高く平均30件程度のリツイート）



【経済産業省】リコール・製品事故情報(製品事故対策室) ✓  
@kochijiko  
経済産業省 製品事故対策室の公式アカウントです。  
身の回りの製品のリコールや事故の最新情報、事故対策のお役立ち情報など「製品安全」にかかわる内容を発信します。  
これまでのリコール情報→[meti.go.jp/product\\_safety...](https://meti.go.jp/product_safety...)  
[自己紹介を翻訳](#)  
◎ 東京都 千代田区 霞ヶ関 1-3-1 [meti.go.jp/product\\_safety/](https://meti.go.jp/product_safety/)  
■ 2010年6月からTwitterを利用しています

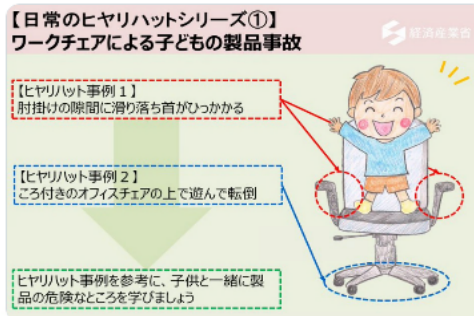
<https://twitter.com/kochijiko>

【旧アイコン・デザイン】



【事例1】当省オリジナルツイート  
日常に潜むヒヤリハット事例を紹介

【経済産業省】リコール・製品事故情報(製品事故対策室) ✓  
@kochijiko  
【日常のヒヤリハットシリーズ①】  
先日、息子がオフィスチェアの上で遊んでいたところ  
肘掛けの隙間に滑り落ち首がひっかかりました  
すぐに気がついたため大事には至りませんでした  
回転するオフィスチェアなどに乗って遊ぶと転倒や落下などの危険があります  
テレワーク用オフィスチェアにご注意を！



【事例2】他省庁引用リツイート  
（製品安全関連のツイートを引用）

【経済産業省】リコール・製品事故情報(製品事故対策室) ✓  
@kochijiko  
就寝時の充電中のスマホの位置に気を付けましょう。実際に低温やけどの事故も発生しております。  
その他電気毛布・湯たんぽなども電源を入れたまま就寝されますと低温やけどの危険がありますので注意が必要です。  
東京都消費生活行政 @tocho.shouhi · 7月5日  
【#スマートフォンでの#低温やけどに注意！】  
使用方法によっては充電中に本体の温度が上昇することも就寝時に#スマホを充電する時は、身体に継続して接触することがないよう置き場所を気をつけてスマートフォン温度の調査結果は  
[shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/attention/kiga...](https://shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/attention/kiga...)

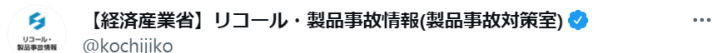




# ■ 自治体、消費生活センター保有のTwitterで“戦時のツイート”を拡散

- 地方自治体や各消費生活センターは日頃から地域に密着した情報発信をしており、この発信ルートを活用することで、一人一人の消費者に情報を届けることができると考えられる。
- 製品事故の注意喚起に関するTwitter発信を、一人でも多くの消費者に届けられるようご協力いただきたい。

## 【戦時のツイート例】



【注意喚起：災害時に想定される製品事故】  
9月1日は防災の日

台風等に伴う停電の際に役立つ携帯発電機やカセットコンロ、モバイルバッテリーなどの防災用品は、使い方を誤れば重大な事故に繋がります

この機に、改めて正しい使用方法の確認をお願いします

[meti.go.jp/press/2021/08/...](https://meti.go.jp/press/2021/08/...)

**災害時の製品事故(携帯発電機)の発生防止**

【注意喚起】災害時の製品事故(カセットコンロ)の発生防止

- カセットコンロの誤使用は、ボンベ破裂等による火災につながります！
- ・カセットコンロを2台以上並べたり、大きな調理器具をのせて使用しないでください。
- ・カセットコンロ用ボンベは、カセットコンロ本体に正しく装着してください。

【注意喚起】災害時の製品事故(モバイルバッテリー)の発生防止

- モバイルバッテリーの使用時の注意！
- ・モバイルバッテリーに衝撃を加えないように取扱いは十分注意してください。
- ・充電ケーブルのコネクターには水分等が付かないようにしてください。
- ・充電時のアダプターは、バッテリー付属のものを使用して下さい。

## 【連携内容】

○【経済産業省】リコール・製品事故情報（製品事故対策室）のアカウントをフォローする。（こちらのアカウントでも関係アカウントはフォローさせていただきます。）

○事故やリコール情報等の戦時のツイートをリツイート

○その他の製品安全情報発信についても適宜引用リツイート

※その他各自治体アカウントフォロー依頼、引用リツイート依頼はこちらまでseihin-anzen@meti.go.jp

